
第130回 「月例ミーティング」

「便利屋 あうん」をご存知ですか？

- 就労支援の新しい実践 -

便利屋 あうん 代表 湯浅 誠 さん
メンバーの皆さん

「働きたくても仕事がない」

そんな彼らと共に、あうんは2002年8月、当事者自身の手による仕事おこしを目指し、リサイクルショップをオープン、翌年7月には便利屋事業を開始しました。

(あうんパンフレットより)

野宿生活となったり、生活保護を受ける状況となった場合、新たに仕事に就くには大変な困難が伴います。連絡先の問題や通院治療との両立など、そのハンデは想像以上に大きいと言わざるを得ません。「便利屋 あうん」では、引越しやアパートの引き払い、ゴミ処分から「家具什器費セット」の販売までを「協同組合的に」手がけることで、「もっと多くの仲間に仕事を」という思いを日々実践しています。就労支援の新しい、実践的な取り組みを紹介していただいて、それぞれの場所での活動を考えていきたいと思えます。

12月という、普段にも増してお忙しい中、30名を超える参加者がありました。

「あうん」の活動について

会はず、「あうん」の皆さんの寸劇(というには、少し長かった)で、普段の仕事内容の一部が紹介され、プロジェクターの画像を見ながら、メンバーの方たちの掛け合いで、「あうん」の活動内容が、順次紹介されました。その内容とは、

1. リサイクル・ショップ

最初の事業はこれから始まったそうです。東日暮里にある「あうん」の店舗で、寄付やアパート撤去などで集まった衣類・雑貨・家電品などを販売しています。雑貨・家電品などは、売り物にするための手入れがなかなか大変だとのこと。

2. フリーマーケット出店

都内各地のフリーマーケットに出店し、衣類・雑貨などを販売します。場所によって売れ筋商品が違い、頭を悩ませるところだそうです。

3. 便利屋事業

引越しや部屋の引き払いです。現在、6~7ヶ所の福祉事務所から仕事を請け負った実績があるとのこと。

4. 家電リサイクル販売

これは、目のつけどころが素晴らしいと思います。生活保護の家具什器の金額に合わせ、2種類のパック料金を設定。4万円のパックでは、家具什器で認められる炊飯器や冷蔵庫のセットを売って、家具什器では購入を認められないテレビなどをおまけにつける、という発想はなかなか心憎いものがあります（皆さん、4万円出しましょうね！）。また、引き取ってきた家電品のリサイクルは、省資源につながるわけです。

5. このほか、部屋のリフォームや支援者の技能を活かした翻訳やテープ起こしなども手がけているそうです。この日も、メンバーのうち数人の方は横浜での屋根葺き作業を午前中で切り上げてこられたそうです。

さて、2002年の夏に始まった野宿者・生活保護受給者など、様々な生活困窮者のための「自分たちの手による仕事おこし」は、最初はリサイクル・ショップの家賃を払うのが精一杯だったそうですが、その年の暮れ頃から3万円ほどの賃金が支払えるようになり、現在では「あうん」の仕事だけでアパート生活ができるようになったメンバーの方も数人いらっしゃるということです。

質問や意見交換も活発でした。

仕事を拡張し、働ける人を増やすということに関しての質問が一番多かったようです。どんどん雇用を増やしてってもらいたいという会場からの声が強かったのですが、「あうん」としては、規模の拡大する意向は持ちながらも、足元をすくわれぬように“適正規模”で当面はやっていきたい、というのが現状のようでした。引き受けた仕事を責任もってやっていくためにはチームワークが重要で、うまく人間関係を保ちながら、ということになると、急な規模拡大は難しいということでしょうか？代表の発言にあったように、一定の小集団で同じような活動をするグループがあちこちにできて、それがネットワークとして機能するようになることが理想かもしれません。

最初、喋ってもらえるのかな、とっていたメンバーの方々も、それぞれの受け持ち部分については、いきいきと情熱を込めて話していただけたことが印象的でした。また、メンバーのうち5人の方が交流会にも参加して下さり、こちらの方も大いに盛り上がりました。

アンケートから

・「あうん」の方々へ。仕事柄、たいへん参考になりました。ワーカーズコレクティブの“はしり”だと思いますので、「あうん」の方々自分たちのやりたい事業を今後も長く続けられることを願っています。また、これからはぜひ、地域の中で、ワーカーズコレクティブの立ち上げにご協力いただければ良いなあと思います。立ち上げから現在に至るまでのご苦労やコツのようなものを他団体にもぜひ伝えて下さい。働く方、利用するかた、

皆さんが元気で生活できるよう、私どもも努力（お手伝い）してまいります。（高齢者無料職業紹介所勤務）

- ・ひとこと言えば、もっと早く知ってればよかったということです。自分のできることや技術を生かして自分たちに必要なものをつくりだしていることに感激しました。（宿泊所勤務）
- ・「あうん」の事業というものは、自身が働く職場・分野とも身近なものだと感じられ、また、このような事業があることを初めて知りました。大きなテーマとはなりますが、「路上生活者」の「雇用創出」に関して一石を投じるものとなることを期待しております。（緊急保護センター勤務）
- ・話をすることが苦手な方もいるというお話がありましたが、それぞれの方のやりがいや雰囲気づくりを大切にされていることに、すごいなあと感じました。初めの劇や職員の方、仲間の方からも楽しさなどが伝わってきて、こちらも楽しくなりました。自分がいる施設から「あうん」はとても近くですので、また利用させていただきます。（施設勤務）
- ・とても参考になりました。“やればなんとかなる”という気持ちで事業を起こしていくというエネルギーがとてもいいなあと思いました。（施設勤務）
- ・働くことに主体的に関わっている様子が伝わって来ました。同じような場が様々な形で存在すると良いと思います。（福祉事務所勤務）
- ・とても面白かった。ぜひ頑張ってもらいたいと思います。（大学勤務）
- ・25,000円のバック、当地でも需要がありますので、こちらにもお越しくください。（シエルター勤務）